

日本を巡る海の旅

岡本 祥一 予科5-7
(川口市) 航空16-4

今回の船旅ではまったくひどい目に合った。台風10号の影響である。船は横浜を8月4日に出航、秋田で竿灯祭り、青森で「ねぶた祭り」を楽しみ、境港を経て釜山入港、8月10日、慶州、観光。天馬塚参観、見事な金細工に一同感嘆。この段階までは問題はなかった。同日夜、釜山出航。この時点で台風が小笠原付近で西日本に向け発達中との情報。結局、高知港、徳島港への寄港は中止、船は急遽予定を変更、関門海峡を通り、瀬戸内海から神戸港に向かうことになった。最も楽しみにしていた「よさこい祭り」はおじゃん。こんなんだったら参加するんじゃないかと悲鳴。



第
1
図
予
定

変更した12日間の航路

結局、釜山からの帰途は神戸港に12日の1泊、簡単な観光のみ。夕方神戸港を追い出され、15日朝、横浜着岸まで約3日3晩、日本南岸の荒れる太平洋をさまよう次第になったのである。その間船酔いを避け、ヨーグルト2かん、バナナ2本のみ。ベッドに横たわり続け、やっとの思いで帰国した。3kgの減量であった。

夏休みを利用してこの種ツアーに6回も参加した経験のある人の話によると、4回

は台風の影響で予定変更を余儀なくされたとの事。私ども夫妻も昨年の夏、この種ツアーに参加、やはり台風の影響で予定が大きく変わってしまった経験がある。

◇青森ねぶた祭りと花火大会

悪い話ばかりでは無い。青森のねぶた祭りと花火大会は見事なものであった。私は東京の西郊の生まれ。父親は雷門の前に昔からある駐在所に巡査として勤務していたらしい。その関係からか、子供の頃、隅田川の花火大会で川沿いの料理屋の2階に連れて行ってもらった記憶がある。その影響からか、未だに花火大会は大好きである。長岡の大学に在籍中も8月2、3日にわたる大花火大会では、研究室の学生と自宅の庭でバーベキューを楽しみながら目の前に上がる花火に歓声をあげていたのである。青森の目玉は二尺玉打ち上げ。やはり長岡の三尺玉の方が腹への響き方が強い。青森のねぶたと呼ばれる灯籠人形は高さ5m、幅9m、奥行き7mとスケールが大きい。このような迫力のある大きな像を作る青森の人々の活力と言うか、底力と言うか、他人に頼らない強い行動力に強く感じ入った次第である。

◇境港 足立美術館

境港には8月9日早朝に入港。思い出の深い街である。その昔、九州での学会の帰りを新婚ならぬ旧婚旅行と称して山陰線を選び、境の街に1泊。折からアメリカでの留学帰りの友が「俺も参加させろ」とのことで3人での道行きとなった。有名なお化けの道を散策。昼食にちょっとした料理屋を撰ぶ。当日その料理屋で結婚式があるとのことで、特別に「海亀」料理一部を提供したいとのこと。もちろん生まれて初めての贅沢な料理、素晴らしい経験であった。同席した友人は数年前鬼籍に入ってしまった。境港は3人の旧婚旅行を楽しむこと

秩父145号(令和1年10月) No. 1509

ができた懐かしい街である。

今回は境港の観光を止めて、バスで足立美術館に向かう。どんな美術館か全く知らなかった。

入って初めて驚いた。横山大観を始め近代日本画壇の巨匠たちの作品展示が素晴らしい。それにもまして、粹をこらした庭園が誠に見事であった。5万坪にも及ぶ広い和風の庭。日本にこんな広い手入れの行き届いた庭園があったのかと感嘆する。美術品見学は短時間に割愛し、予定の自由時間、2時間の大半を庭園の眺めに当ててしまった。芝の緑、こけの緑、そして松の緑、枯山水の心憎い見事な配置。この場を借りて皆様に一度はお出かけになる事をおすすめしたい。未だにあの緑の庭園が頭に刻み込まれている。◇慶州博物館と天馬塚古墳

八月十日早朝、釜山入港。高速バスで約1時間半、慶州博物館に到着し古墳群の見学。慶州市付近は紀元前1世紀頃から10世紀頃まで千年にわたり新羅王朝の首都として栄えた土地である。館内を一巡、天馬塚古墳にむかう。古墳内部には発掘された品々が展示されている。特に目を引くのは王冠である。その概要を第2図に記載する。純金製である。王冠に限らず多くの展示品は全て純金製である。大体紀元400年前後の物ではないかとのこと。朝鮮全土の中

で金がどこで採掘されたのか聞いて回ったが、まともな返事は得られなかった。そのほか多くの金製展示品の中には日本にもありそうな物があり、その昔からの日本と朝鮮王国との密接な交流が偲ばれる。それにしても現時点での険悪な日韓関係、いつ改善されるのであろうか。心配である。

◇使用した船

船籍；英国、11万6千トン、ダイヤモンド・プリンセス号、全長約290m、三菱重工長崎造船所製、2004年竣工、乗客定員；3,100名、乗組員；1,060名。今回の乗船客；約2,800名、日本人1,100名。他に米国、香港、中国など各国からの参加者があった。



第2図 天馬塚古墳の金製の王冠